

一地方無醫村の社會醫學的考察

岸本 鎌一 杉田 直樹

(名古屋帝國大學醫學部精神醫學教室)

文部省厚生省主催香川縣援助の下に本學々生 10 名と共に昭和 16 年 8 月中、香川縣小豆郡福田村(無醫村)全成員精密調査を行ひ、僻陬の農漁村の社會醫學的現在狀況を明かにした。

(一) 環境調査 (1) 地誌及び産業 福田村は小豆島の東端に位し面積 0.915 方里、人口約二千、氣候温和なる海濱部落で、全島花崗岩より成り有名なる石材産地(石材採掘年 16 萬圓)であり、又水産業(8 萬圓)農業(5 萬圓)も盛である。従つて村經濟は豊かで、上水道の設備さへあり、村民の生活にも餘裕がある。(2) 飲酒 15-80 歳男子 498 名中習慣的飲酒者 32%(他地方に比して高率)、機會的飲酒者 31%、不飲酒者 36%である。(3) 喫煙 男子習慣的喫煙者 65%、不喫煙者 31%。女子習慣的喫煙者 17%、不喫煙者 83%。即ち男女共喫煙者率がかかなり高い。(4) 飲料水 223ヶ所の井水に就き一々外視、亜硝酸、アンモニア、硝酸、過マンガン酸カリ消費量、クロール、石灰、硫酸、鐵の各項目に互り、定性並に定量試験を施し、常水判定標準に従ひ飲料用としての適不適を定めた所、適 36.7%、稍不適 39.0%、不敷 24.2%で、特に海濱に面した部落に不適の水が多い、其の爲め上水道が既に敷設せられたが、爾來上水道ある部落には寄生蟲卵が減じた。

(二) 人口状態 (1) 調査時現在人口は 1963 名(男 994、女 969)、年齢別人口構成圖は大體ピラミッド型だが、20-35 歳の男子が著しく少ない。(2) 婚姻率は本年迄過去 10 年間人口千に付 16.1、離婚率 1.2、血族結婚は 3%で、全國平均 5%に比して、割に少ない。(3) 出生率は過去 10 年平均 31.3。(4) 死亡率は同期間 21.1 で全國平均よりも稍高い。乳兒死亡率 8.2%、死産率 0.96%で全國平均よりも却つて少ない。(5) 死亡原因は過去 10 年平均によれば 1000 死亡者中、呼吸器結核 114(全國 85.2)で多いが、氣管支炎 4.0、肺炎 29.0 で少ない。脳出血腦栓塞及び腦血栓 151(全國 100.6)、心臟疾患 151(全國 37.6)で甚だ高いが、之は魚介の偏食、血壓亢進、ロイマチスムス患者の過多等と關聯するらしく察せられる。

(三) 身體的調査 (1) 身體検査 精密に施行した所、10 歳以下幼兒期、低級學童期のものの身長體重、胸圍は著しく劣り虚弱の感を與へられたが、10 歳以

上の者では却つて本邦人平均値を凌ぐ程良好である。(2)月經初潮は15歳 23%, 16歳 26%, 17歳26%で早熟とは云へない。(3)血壓は30歳以上の者のみ検したが, 59歳迄の者は男女共本邦人平均値に比し最高壓高く最低壓低く, 従つて脈壓大である。60歳以上は其値交叉して却つて本邦人平均値よりも低くなる。脈壓の大なるは動脈硬化, 慢性腎炎, 大動脈瓣閉鎖不全等によるらしく, 之亦魚介偏食, 潜水作業, 飲酒喫煙過多等に因るものと察せられる。(4)血型は1174名中, A型35.2%, B型23.2%, AB型7.0%, O型34.7%, Hirsfeld 生物化學的人種指數1.4で本邦人1.54に近い。(5)トラコマ罹患者は10.7%で全國平均値よりも低い。但し學童のみでは男兒15.8%, 女兒10.2%で, 全國の率に殆ど等しい。(6)色盲は男子3.64%で全國の率よりも稍少なく, 女子1.23%で全國の率の3-6倍に上つてゐる。(7)寄生蟲検査は集卵法によつた(アンチフォルミンの代用に「にがり」を用ひた)。其の結果は下表の如くである。即ち有卵者甚だ多く蛔蟲, 鞭蟲, 十二指腸蟲を同時に有する者も

部落名	検査人員	有卵者		蛔蟲		鞭蟲		十二指腸蟲		東洋毛 様線蟲	蟯蟲	無鈎 條蟲
		數	%	數	%	數	%	數	%			
尾崎	509	172	33.7	65	12.7	67	13.1	80	15.7	3	7	1
濱	440	127	26.5	32	7.2	56	12.7	56	12.7	1	5	0
岡	311	131	43.0	37	11.2	37	11.2	100	32.1	3	5	0
吉田	66	29	43.9	20	30.3	5	7.6	10	16.8	1	0	0
總計	1326	462	34.8	154	11.6	165	12.4	246	18.5	8	17	1

多い。寄生蟲は部落別でかなり差異あり, 濱部落に凡ての寄生蟲卵の少ないのは此の部落に上水道がある爲めと推測せられる。年齢別に見ると4歳迄の幼兒に蛔蟲4.2%十二指腸蟲6.4%, 5-9歳兒童に前者15.7%, 後者6.7%, 10-14歳兒童に前者14.5%, 後者13.3%あり, 學童の健康上注意を要する。(8)尿検査によると, 蛋白陽性40歳以下の男子352名中3.98%, 同女子357名中5.88%, 40歳以上の者では男243名中7.0%, 女228名中8.33%ある。糖に就ては40歳以上男子中0.82%, 女子中0.44%陽性である。兩者共に陽性の者は何等か既往病歴があつた。(9)梅毒試験 653名に就き村田氏反應陽性3.96%, 學童260名に就き井出氏反應陽性3.09%, 何れも他農村調査の結果よりも低い。(10)癩は神經癩1名存在した。(11)結核調査マントー反應陽性率は上表の如く學童に就ては全國に比し非常に低率である。赤沈速度は村民1298名(男681, 女617)に就て検したが, 女子20-24歳のもので1時間平均値20.3(最大70-最低3)が稍標準より大で, 他は著しい異常はない。レントゲン間接撮影では學童以上の全村民1000名に施行し結核所見ある者43名。之はマントー, 赤沈共に陽性であつた。以上の外, 聽打診により結核罹病確實と認められる者32名を精査せるに, 都會で發病し歸郷療養中の者7名, 本村で發病した者25

名で、後者には病覺なき者多く、喀痰検査では皆菌陰性であつたのは幸である。

(12) **乳兒榮養調査** 生後2年未滿の男兒49名女兒30名に就き生後6月迄の榮養法を調べた所、母乳69.6%、人工榮養8.8%、混合榮養3.6%で、人工榮養が著しく多い(一般農村約2%)、人工榮養法は牛乳は少なく山羊乳多く、次に重湯、粉乳、煉乳等で、混合榮養は母乳と重湯とが最も多い。6月後 1 養は9月迄は果汁、菓子、1年迄は米飯、野菜、魚肉、鶏卵等が約半数を占めてゐる。但し母乳全廢の時期は甚だ遅い、母乳から直に米飯に移るものが半数以上で、爲めに離乳期に入つてから體重増加激減し、體重が標準以下になるものが多い。

(13) **虛弱兒童調査** 國民學校に於て虛弱兒童として選ばれたる109名に就き精細再診せるに、身長、體重、胸圍等特に小さく、尙扁桃腺肥大せるもの16.5%、肺のレントゲン像打診聽診上所有見あるもの33.9%、マントー反應陽性22.0%、赤沈反應中等價平均値10.6、微毒反應陽性6.4%、寄生蟲卵を有せる者23.9%等。其他離乳期の榮養粗雑、魚介偏食、菓子過剰攝取(統制前)等による榮養障礙も考へられる。

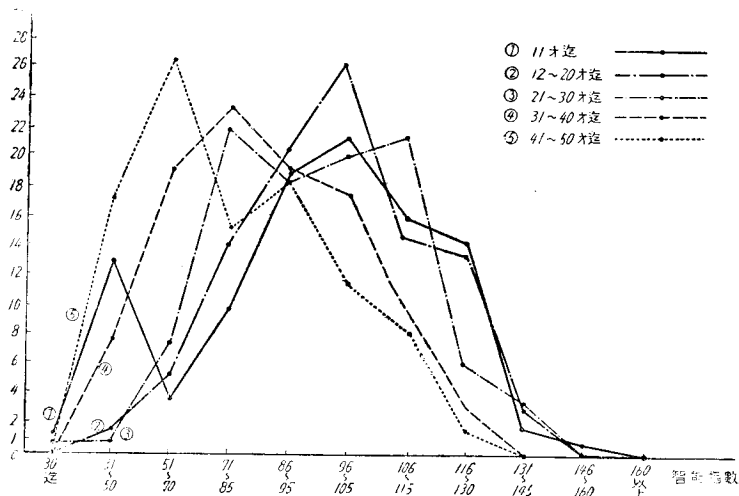
(14) **石工**

年齢		1—6	7—14	15—20	21—30	31以上	計
男	検査人員	100	159	34	65	321	679
	陽性者	8	26	18	55	284	391
	陽性率	8.0	16.4	52.9	84.6	88.4	57.6%
女	検査人員	88	146	29	124	327	714
	陽性者	9	30	15	89	265	408
	陽性率	10.2	20.3	51.6	71.7	81.0	55.7%

健康調査 本村には花崗岩採石者多く、其の92名に就て健康状態を種々の角度より検査するも一般健康男子に比して差違なく、レントゲンにより石粉肺の有無を精検査するも病的所見あるもの僅4名に過ぎない。但し腰部運動過多の爲め腰痛を訴へる者が多かつた。

(四) **精神方面調査** (1) **智能検査** 學童並に50歳迄の男女84名に岡部式團體検査を施行した。其結果は次に圖示する。8—11歳者で51—70點のもの特に少ないのは課題の不適當の爲であらう。12—20歳のものアトレ曲線に近く、31—40歳のもの智能の衰へを示して曲線稍左偏し、41—50歳のもの更に著しい。即ち智的活動の早老を示す。本村では指數70以下(精神薄弱)のもの20%の多きに及ぶ。併し此の結果より智能の本質を考へるのに本村特有の環境的條件を更に参照しなければならぬだらう。(2) **意志氣質検査** 國民學校初等科五六年、高等科一二年、青年學校生徒等169名に就き桐原式意志氣質検査法を施行せる結果、男子一般には各年齢を通じ運動型最も多く、次に運動進行型、思慮型の順であるのに、

本村では運動型と同程度に思慮型があり、運動進行型は少ない。女子では一般には進攻型多く思慮型少なく、衝動型が多い筈なのに、本村では思慮型断然多く、進攻型は少ない。男女を通じ運動型、進攻型のもの少なく、思慮型のものが多い。之は環境の刺戟が少なく凡て控へ目なの因るためであらう。(3)精神病調査 全村に於て精神分裂病6, 初老期憂鬱症1, 進行麻痺1, 脳溢血後精神異常1, 脳炎後癲癇1, 白癡4, 計14名である。其等の遺傳調査に就ては追報する。



(五) 醫療狀況調査 日本村には醫師は居ないが、病者は便船で高松市岡山市に赴いて診療を受けることが多い。爲めに村民一人當り平均保健醫療費 16.25圓の多額に上り、年収に比して比率8.81%になつてゐる。

(六) 診療 予等の診療せしもの計299名(成人232, 小兒67), 其中呼吸器疾患18.7%, 消化器疾患28.1%, 皮膚病10.3%, 神経系疾患10.0%, 眼疾9.3%, 血行器疾患9.0%となり、他は極めて低率である。地方病として特異のものはなく、唯前記する如く石工が多いため腰痛, 神経痛を訴へるものが比較的多い。

予等は尙福田村に引き継ぎ農山村なる香川縣綾歌郡粉所村ツギシロ(無醫村)に於ても同様なる成員調査を行ひ、之と漁村なる福田村と對照して種々の比較検討を行つたが、詳細は尙集計中に屬するので追て詳細は「民族衛生」誌に登載を乞ふ豫定である。

(受附: 昭和 17 年 1 月 15 日)